

具体的取組の推進状況

施策の区分	(2) 自立した生活や社会参加の促進	施策の方向	① 子どもの健やかな育成のための支援 (具体的取組数 9)
施策の方向	福祉、保健、医療、保育、教育、就労支援等の関係機関が連携を図り、ライフステージを通じて、切れ目のない一貫した支援を提供する体制の構築を図る。		

具体的取組の内容	実施状況	実施内容	R4 予算額 (千円)	実施実績	自己 評価	評価 根拠	委員会 評価	評価 根拠	前年度の評価	
									実施 状況	評価
1	I	委託により子ども発達支援センター2か所を運営している。	116,289	R3実績:利用者243人	B	センターの利用人数が増加しており、増築工事の実施や職員の増員等の対応を行ってきている。一方で、療育を必要とする児童が年々増加する傾向にあることから、受入方法等の検討を行う必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
2	II	総合支援協議会に6つの専門部会を設置しているが、コロナ禍により開催できていない部会がある。		R3実績:6つの専門部会のうち、2つは一堂に会しての開催、残りは書面での開催のみとなっている。	B	令和4年度から順次部会を開催し、検討体制の充実を図ることとしている。	B	自己評価のとおり	II	C
3	IV	町の発達支援関係部署における情報共有・課題検討等の連携を強化し、横断的支援体制の構築に向けた検討を始めます。							IV	
4	I	児童が集団生活を送ることができるよう、関係事業所が保育園や学校等を訪問し、医療的ケア等の必要な支援を行っている。	825	R3保育所等訪問支援実績:1人 R3医療的ケア児支援事業実績:1人	A	保育所等訪問支援については、子ども発達支援センターが中心となり、希望するときに当該支援を受けられる体制が整えられている。医療的ケア児支援事業については、事業所に医療的ケアを行う看護師を派遣することにより、対象児童の円滑な利用につながっている。	A	自己評価のとおり	I	A
5	I	医療的ケアが必要な子どもや強度行動障がいがある子どもなどが必要な支援を受けられる体制づくりを行います。	5,140	R3実績:5人(1法人)	B	医療的ケアが必要な児童等の受入体制の整備が進んできており、令和2年度には総合支援協議会に医療的ケア部会が設置され、協議の場も整備されている。今後は部会での協議を通して体制づくりについて検討していく。	B	自己評価のとおり	I	B
6	I	質の高いサービスを提供できるよう、通所支援事業所や相談支援事業所が自主的に行う研修会等への助成を行います。	500	R3実績:100千円(1法人)	B	各事業所が自主的に職員のスキルアップ等に取り組むことを支援する体制が整備されているが、利用実績が少なく、利用促進のためより効果的な周知方法を検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
7	I	支援が必要な子どもが経済的な理由でサービスを受けられないことがないよう、利用者負担額の助成等を行います。	1,750	R3実績:129人2,342千円	A	障がい福祉サービス等利用者負担額助成や高額地域生活支援事業費助成により、児童に係る利用者負担の軽減が図られている。	A	自己評価のとおり	I	A
8	I	保護者が我が子の将来の見通しをつけられるよう、ライフステージごとの手続や支援内容等を記載したフローチャートを作成します。		R3実績:福祉サポートブックに掲載しているほか、窓口での相談業務等において広く周知している。	B	フローチャートが掲載された福祉サポートブックを交付することにより、一定程度の周知が図られた。今後はより良い内容にするための見直しやより効果的な周知方法を検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
9	I	保護者同士が相談や情報交換できる場やペアレントメンターによる相談の場の提供、保護者のレスパイトを図る支援等を実施するなどの保護者支援を実施します。		R3実績:4回実施	B	発達支援トークの開催により、参加した保護者が育児等の悩みを相談したり、自身の経験を伝えることができるなど、保護者同士の相談や情報共有の場として貴重な機会となっている。今後は参加者の増を目指して、より効果的な周知方法を検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
【評価基準及び配点】		I :実施済(5点) 7項目 II :一部実施(4点) 1項目 III :今年度以降実施見込(3点) 0項目 IV :検討中(2点) 1項目 V :未実施(0点) 0項目		} 実施状況がI又はIIの場合、評価を行う。 8項目		A :現状のままで可(5点) 2項目 B :目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点) 6項目 C :目標達成のために改善が必要(3点) 0項目 D :目標達成のために抜本的見直しが必要(2点) 0項目 E :実施不要(0点) 0項目	A 2項目 B 6項目 C 0項目 D 0項目 E 0項目			
評価結果	4.6点				3.8点		3.8点			

施策の方向 の評価	自己 評価	ほぼ全ての取組を実施しており、その評価もA又はBとなっているが、実施できていない取組が1つある。今後は、部会での検討による体制づくりや各種事業等に係るより効果的な周知方法について検討していく必要がある。	委 員 会 評 価	B	自己評価のとおり	評価基準 及び配点	A:目標どおり達成している(5点) B:目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点) C:目標達成のために改善が必要(3点) D:目標達成のために抜本的見直しが必要(2点) E:目標自体の見直しが必要(0点)	前年度の 評価	B
--------------	----------	---	-----------------------	---	----------	--------------	---	------------	---

# 具体的取組の推進状況

施策の区分	(2) 自立した生活や社会参加の促進	施策の方向	② 就労支援体制の確立 (具体的取組数 7)
施策の方向	障がいのある人が、就労を目指す際に、訓練や実習などのステップを経ることができる体制を整えるとともに、多様な就労機会の確保を図る。また、就労や生活面での相談支援体制の充実を図る。		

具体的取組の内容	実施状況	実施内容	R4 予算額 (千円)	実施実績	自己 評価	評価根拠		委員会 評価	評価根拠	前年度の評価	
						評価	根拠			実施 状況	評価
1 障がい者基幹相談支援センターを運営し、就労を含めた包括的な相談支援を関係機関と協力しながら行うとともに、就労に係る相談支援体制の強化に向けた検討を行います。	I	委託により相談員を3人配置し、基幹相談支援センターを運営することで、包括的な相談支援体制を実施している。	20,178	R3実績：相談件数5件(就労関係分)	A	初期相談、サービス利用後のモニタリング、定期的な家庭訪問に加えて、金銭管理援助などのインフォーマルな支援も行うなど、ニーズに合わせて幅広く対応している。福祉課所管業務以外の場合は、完全なワンストップ対応が難しいが、必要に応じて担当機関へ適切に引き継いでいる。また、令和2年度から新たに公認心理師1人を配置し、相談支援体制の充実を図っている。	A	自己評価のとおり	I	A	
2 就労支援事業所が行う一般就労に向けた訓練内容等について、パンフレットなどを作成し配布します。	I	就労系事業所の見学や聞き取りを行い、事業所一覧パンフレットを作成している。	-	R3実績：作成した事業所一覧パンフレットにより情報提供を行った。	A	作業内容や工賃などの情報を掲載するとともに、希望者が一般就労までの流れをイメージしやすいよう写真やフロー図を使用するなどの工夫をして作成している。	A	自己評価のとおり	I	A	
3 【重点】一般就労に向けた体験・訓練等を行う職場体験事業を実施するとともに、当該事業等を活用した就労支援体制の強化に向けた検討を行います。	I	就労を希望する者に、希望職種に近い職場での就労体験の機会を提供している。	688	R3実績：4人	B	新型コロナの中、令和3年度は、4人が職場体験事業を利用した。今後は利用者の増のためのより効果的な周知や受入事業所の拡大を図っていく。	B	自己評価のとおり	II	C	
4 【重点】就労支援等に係る関係機関等が地域課題等に係る協議や支援者の資質向上のための研修等を行う場を設けます。	I	総合支援協議会に専門部会を設置して協議等を始めている。	-	R3実績：就労支援部会を1回開催している。	B	今後は就労支援部会の開催回数を増やし、協議や研修等を定期的に行っていく。	B	自己評価のとおり	II	C	
5 就労定着支援の利用等により、一般就労につながった人が環境の変化等に対応して、長く就労できるよう支援を行います。	II	就労支援部会での協議等を重ねて一般就労への支援に向けた検討を進めていく。	-	R3実績：就労支援部会を1回開催している。	C	就労支援部会での協議は始まったばかりであり、今後は一般就労への支援に向けた検討を重ねていく。	C	自己評価のとおり	V		
6 就労支援事業所を支援するため、優先的に物品の調達や業務の発注等を行ったり、授産製品の販売機会の拡大等を行います。	I	毎年度、優先調達方針を策定し、役場内での優先調達を呼びかけるとともに、庁舎内等で授産製品の販売機会を設けるなどの支援を行っている。	-	R3調達実績：36,102千円	B	優先調達方針を策定し、役場内での優先調達を呼びかけたが、新型コロナのため庁舎内での授産製品の販売機会が微増にとどまっている。今後は更に呼びかけを強化していく。	B	自己評価のとおり	I	B	
7 就労支援事業所等の工賃の向上等を目的とした、農業との連携や高速道路管理会社との連携等を実施します。	I	町内の事業所が農場等で各種作業に従事する「農福連携」や「高福連携」事業を実施している。	-	R3実績：町内事業所の利用者が町内の農場でハウス内の除草作業に、また町内のパーキングエリアやインターチェンジで花壇の定植や、除草、散水等の管理事業に従事した。	B	「農福連携」・「高福連携」事業の実施により、町内の日中一時事業所や生活介護事業所の利用者の賃金向上や就労訓練が行われた。今後は、更に取組を強化し、作業機会の増に努める必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B	
【評価基準及び配点】	I : 実施済(5点)	6項目	} 実施状況がI又はIIの場合、評価を行う。 → 7項目	A : 現状のままで可(5点)	2項目	A : 2項目					
	II : 一部実施(4点)	1項目		B : 目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点)	4項目	B : 4項目					
	III : 今年度以降実施見込(3点)	0項目		C : 目標達成のために改善が必要(3点)	1項目	C : 1項目					
	IV : 検討中(2点)	0項目		D : 目標達成のために抜本的見直しが必要(2点)	0項目	D : 0項目					
	V : 未実施(0点)	0項目		E : 実施不要(0点)	0項目	E : 0項目					
評価結果	4.9点		4.1点		4.1点						

施策の方向 の評価	自己評価		委員会評価		評価基準 及び配点	前年度の評価
	B	未実施の取組が解消され、評価もA又はBの取組がほとんどであるが、Cの取組が1つある。今後はこれらの改善を図るため、就労支援部会での協議や研修の強化に努めていく必要がある。	B	自己評価のとおり		

# 具体的取組の推進状況

施策の区分	(2) 自立した生活や社会参加の促進	施策の方向	③ 所得保障	(具体的取組数 4)
施策の方向	経済的自立と社会参加を推進するため、年金や各種手当等の周知を図るとともに、経済的負担を軽減するための支援を行う。			

具体的取組の内容	実施状況	実施内容	R4 予算額 (千円)	実施実績	自己 評価	評 価 根 拠	委員会 評価	評 価 根 拠	前年度の評価	
									実施 状況	評価
1 年金や各種手当制度、医療費助成制度、各種料金等の割引制度、費用軽減措置等を個別(手帳取得時等)及び全体(広報等)に周知するとともに、全体を網羅したわかりやすいパンフレット等を作成し、配布します。	I	福祉サポートブックを作成し、手帳交付時などに配布し、併せて対象者ごとのサービス一覧を添付しているほか、手当制度について広報紙で毎年1回周知している。		R3実績:手帳新規交付者全員にサービス一覧を配布するとともに、広報紙に掲載した。	A	全面的な見直しを行った福祉サポートブックを配布するとともに、サービス一覧の配布や広報紙への掲載により周知した。	A	自己評価のとおり	I	B
2 自立支援医療費や重度障がい者への医療費に係る助成を行います。	I	更生医療や育成医療、重度心身障がい者医療に対し、各種助成を行っている。	188,179	R3実績:延べ1,037人、141,114千円を助成	A	更生医療、育成医療、重度心身障がい者医療に係る費用に対し、それぞれ助成を行うことにより、対象者の所得補償につながっている。	A	自己評価のとおり	I	A
3 社会情勢や制度改正などに応じて、必要とされる支援や費用軽減措置を行います。	I	必要とされる支援や費用軽減措置等について、関係機関と連携しながら適時実施している。		交通費の対象範囲拡大、中軽度難聴児に対する補聴器購入費の助成等を行っている。令和3年度は、日常生活用具の種目の追加や自動車改造費助成事業の上限額の見直しを行った。	A	町民の意見等を踏まえながら、必要な支援や費用軽減措置等を実施するための取組が着実に進められている。	A	自己評価のとおり	I	A
4 <b>【重点】</b> ICTを活用したオンライン申請を可能にするなど、申請手続の簡略化に向けた取組を検討します。	II	一部の手続においてICTを活用したオンライン申請を可能にするなど、取組に着手している。		児童が利用する障害福祉サービス等利用者負担額助成事業において、オンライン申請を可能にするなどの取組を行った。	C	今回の取組の結果を検証した上で、他の手続でもオンライン申請が可能なものがないか確認し、取組を拡大していく必要がある。	C	自己評価のとおり	V	
【評価基準及び配点】	I :実施済(5点)	3項目	} 実施状況が I 又は II の場合、評価を行う。 → 4項目	A :現状のままで可(5点)	3項目	A :3項目				
	II :一部実施(4点)	1項目		B :目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点)	0項目	B :0項目				
	III :今年度以降実施見込(3点)	0項目		C :目標達成のために改善が必要(3点)	1項目	C :1項目				
	IV :検討中(2点)	0項目		D :目標達成のために抜本的見直しが必要(2点)	0項目	D :0項目				
	V :未実施(0点)	0項目		E :実施不要(0点)	0項目	E :0項目				
評価結果	4.8 点		4.5 点		4.5 点					

施策の方向 の 評 価	自 己 評 価		委 員 会 評 価		評価基準 及び配点	前年度の評価
	A		A	自己評価のとおり		
A	全ての取組を実施しており、そのほとんどがA評価となっている。今後はC評価となっている重点項目について、取組を拡大するなどの改善が必要になる。		A	自己評価のとおり	A:目標どおり達成している(5点) B:目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点) C:目標達成のために改善が必要(3点) D:目標達成のために抜本的見直しが必要(2点) E:目標自体の見直しが必要(0点)	B

# 具体的取組の推進状況

施策の区分	(2) 自立した生活や社会参加の促進	施策の方向	④ 社会参加の促進	(具体的取組数 4)
施策の方向	障がいのある人が地域社会の一員として各種活動等に参加しやすい環境づくりを推進するとともに、主体的に参加するために必要な情報の提供を行う。			

具体的取組の内容	実施状況	実施内容	R4 予算額 (千円)	実施実績	自己 評価	評価 根拠	委員会 評価	評価 根拠	前年度の評価	
									実施 状況	評価
1 障がいのある人でも参加しやすいスポーツやレクリエーション、芸術文化活動を広報します。	I	スポーツ・文化団体の情報を収集し、障がいがある人でも参加しやすい内容を表にまとめ、ホームページで周知することで、会員増の取組を図っている。		2団体、2施設の情報をホームページに掲載し、広く紹介している。	B	今後は、紹介団体数を増やすとともに、情報を適時に更新していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
2 当事者団体や民間の活動団体等と協力しながら、障がいのある人でも参加しやすいスポーツやレクリエーション、芸術文化活動の普及を目指します。	II	当事者団体でポッチャによるスポーツ交流が行われている。		R3実績:当事者団体によるポッチャ交流会1回	B	スポーツを通じた地域の活性化を目指す民間企業との協働により、当事者団体でポッチャでのスポーツ交流が行われている。今後はこのような取組を継続するとともに、芸術文化活動の普及に努める必要がある。	B	自己評価のとおり	II	C
3 当事者団体の活動を広く紹介し、参加を呼びかけます。	I	各団体の目的や活動状況、会員の募集をホームページや福祉サポートブックで周知することで、広く町民に認知してもらうとともに、会員増を図っている。		写真も活用しながら4団体の活動状況等をホームページや福祉サポートブックに掲載し、広く紹介している。	B	今後は、掲載情報を適時に更新していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
4 当事者団体の活動を継続するために必要な支援等を行います。	I	各団体の運営に対し、費用の一部を助成している。	810	R3実績:322千円(2団体)	A	当事者団体への運営費補助が、団体の活動が継続するための支えとなっている。	A	自己評価のとおり	I	A
【評価基準及び配点】	I :実施済(5点) 3項目		} 実施状況が I 又は II の場合、評価を行う。 → 4項目	A :現状のままで可(5点) 1項目		A 1項目				
	II :一部実施(4点) 1項目			B :目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点) 3項目		B 3項目				
	III :今年度以降実施見込(3点) 0項目			C :目標達成のために改善が必要(3点) 0項目		C 0項目				
	IV :検討中(2点) 0項目			D :目標達成のために抜本的見直しが必要(2点) 0項目		D 0項目				
	V :未実施(0点) 0項目			E :実施不要(0点) 0項目		E 0項目				
評価結果	4.8 点			4.3 点		4.3 点				

施策の方向 の 評価	自 己 評 価		委 員 会 評 価		評価基準 及び配点	前年度の評価
	<b>B</b>	全ての取組が実施済みとなり、評価もA又はBとなっている。今後は、芸術文化活動の普及や情報の適時更新などに努める必要がある。		<b>B</b>		

# 具体的取組の推進状況

施策の区分	(2) 自立した生活や社会参加の促進	施策の方向	⑤ 外出支援の充実	(具体的取組数 6)
施策の方向	障がいがある人が自立した生活を送ることができるように、外出支援サービスの充実や公共交通機関の利用促進を図る。			

具体的取組の内容	実施状況	実施内容	R4 予算額 (千円)	実施実績	自己 評価	評価 根拠	委員会 評価	評価 根拠	前年度の評価	
									実施 状況	評価
1 自動車運転免許取得費への助成を行います。	I	自動車運転免許取得費への助成を行っている。	200	R3実績: 1人100千円	B	福祉サポートブックやホームページで周知を図っているが、より効果的な周知方法について検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
2 身体障がい者用自動車改造費への助成を行います。	I	一般車両を身体障がい者用に改造する経費に対して助成している。	400	R3実績: 利用実績はなかったが、助成の上限を従前の150千円から200千円に増額した。	B	令和3年度からは上限額を1件20万円に増額するなど、制度の充実を図っている。今後は、福祉サポートブックやホームページでの周知に加え、より効果的な周知方法について検討していく必要がある。	B	自己評価のとおり	I	B
3 公共交通機関の運賃割引制度の周知を徹底します。	I	福祉サポートブックやホームページ等で制度の周知を行っている。	—	手帳交付時に、運賃割引制度等を含めた対象者ごとの該当サービス一覧を配布するとともに、福祉サポートブックやホームページで周知した。	A	手帳交付時に対象者へ個別に案内するとともに、福祉サポートブックやホームページにも掲載するなど、周知の徹底が図られている。	A	自己評価のとおり	I	A
4 移動支援事業を必要量確保します。	I	利用者のニーズを確認して、必要量を適時把握し、事業所等に委託して実施している。	2,000	R3実績: 14人5,022千円	A	利用者がニーズに合った事業所に通うことができるように、町内外の事業所に委託し、幅広い選択肢を確保している。また、利用上限を設けず、ライフスタイルに応じた支給量を提供している。さらに、令和2年度からは医療的ケアが必要な児童の通学も利用可能にするなど、適宜制度の見直しもを行っている。	A	自己評価のとおり	I	A
5 自力での除雪が困難で周りからの助けも難しく、経済的な面で民間事業者等に除雪をお願いすることができない人を対象に、福祉除雪を実施します。	I	降雪がおおむね15cmを超えた場合、玄関先から道路に至るまでの1.5m幅の通路を確保する福祉除雪を実施している。	—	R3対象世帯: 36世帯	A	福祉除雪により対象者の外出や社会生活の確保が図られている。	A	自己評価のとおり	I	A
6 福祉有償運送制度の適切な運用を行います。	I	必要に応じて、福祉有償運送運営協議会を開催している。	—	R3実績: 1回	A	福祉有償運送運営協議会の開催を通して、適切な制度の運用が図られており、今後も同様に行っていく。	A	自己評価のとおり	I	A
【評価基準及び配点】	I : 実施済(5点) 6項目		} 実施状況が I 又は II の場合、評価を行う。 → 6項目	A : 現状のままで可(5点) 4項目		A 4項目				
	II : 一部実施(4点) 0項目			B : 目標を概ね達成しているが、改善の余地がある(4点) 2項目		B 2項目				
	III : 今年度以降実施見込(3点) 0項目			C : 目標達成のために改善が必要(3点) 0項目		C 0項目				
	IV : 検討中(2点) 0項目			D : 目標達成のために抜本的見直しが必要(2点) 0項目		D 0項目				
	V : 未実施(0点) 0項目			E : 実施不要(0点) 0項目		E 0項目				
評価結果	5.0 点		4.7 点		4.7 点					

施策の方向 の評価	自己評価		委員会評価		評価基準 及び配点	前年度の 評価
	A	全ての取組が実施済みであり、そのうちの多くがA評価となっている。	A	自己評価のとおり		